



城っ子の未来を拓く

愛南町立城辺小学校

防災教育だより

2026.7.1 NO.4



6月12日（金）の参観日では、5・6年生と保護者の方が愛南消防署員の指導のもと、心肺蘇生講習を受けました。今回は、その様子と5・6年生と保護者の方の感想の一部を紹介します。



児童の感想（一部掲載）

- 私は、初めて心肺蘇生法をやってとても難しいことが分かりました。角度や押すタイミングなどが大変でした。
- 参観日の心肺蘇生法の学習では愛南消防署の方が来てくださり、AEDの使い方や心肺蘇生の胸骨圧迫のやり方がとても分かりやすかったです。一連の流れは分かりましたが、実際になると慌てすぎてAEDを使うのが難しいかもしれません。心を落ち着かせ教えてもらったことを忘れずに人のいのちを救いたいと思いました。
- 人形を使った練習だったけど、実際に心臓マッサージをすると、思った以上に力が必要で、体力も使うことに驚きました。もし目の前で誰かが倒れたら、緊張して動けなくなってしまうかもしれないけど、今日習った手順を覚えておき、いざというときに勇気を出して動けるようにしたいです。また、これからは、学校や町の中で、AEDがどこにあるかなどを、意識して見てみようと思いました。

保護者の感想（一部掲載）

- 心肺蘇生法講習会は勉強になりました。授業参観の時に親子で避難訓練を試してみるのも良いかと思いました。
- 南海トラフ地震への備えも言われている中で、このような学びをきっかけに防災について考える機会がさらに広がるといいな、と思いました。
- 高学年は、人命救助の重要性を理解できる年齢だと思うので、心肺蘇生講習会を経験させていただき、誰かの命を救うための知識を学ぶことができとてもよかったと思いました。
- 時間が足りなくて人形で心肺蘇生が体験できない児童がいた。親子で同じ時間に学べるようにしたら時間短縮、親子で学べるのではないかな。

「人の命を救うために自分ができること」体験

- 1 倒れている人を見つけたときの行動
- 2 胸骨圧迫（心臓マッサージ）
- 3 AEDの使い方
- 4 119番通報の仕方



「応急手当、防災用品、避難後の生活について子どもや保護者が一緒に学ぶ機会があると、家庭で話し合うきっかけになりそうです！」

という御意見をいただきました。文部科学省のデータでは、子どもが1年のうち学校で過ごす時間は「約2割」、それ以外の時間が「約8割」と試算されています。学校と家庭どちらの時間においてもとっさの行動ができるよう、備えておきたいですね。